

**新生存権裁判東京高裁  
「2分の1処理」違法性を認めよ  
生存権裁判を支える東京連絡会**



4月20日(月)新生存権裁判東京高裁第1回口頭弁論が行われました。これに先立ち、朝から原告・弁護団・支援者が東京高裁前で宣伝・入廷行動を行いました。

宣伝行動では、この間の厚労省による、最高裁判決を軽視した不当な引き下げ措置について批判し、弁護団・支援者・原告がリレー方式で訴えました。当日は、愛媛から愛媛大学副学長の鈴木静教授も駆けつけ、参加者を励ましました。チラシを受け取った人からは、「頑張れ」の声も寄せられました。

口頭弁論では、訴訟代理人の瀬上先生から、国が行った「専門家の知見を無視し、財政削減という政治目的のために、生活に困窮する多くの人々に重大な影響を与える基準改定を密室で決定したことは、明らかに裁量権の逸脱・濫用」として、「ゆがみ調整2分の1処理」についての判断を正すように求めました。原告からは、「違法な引き下げで、本来の水準を下回る生活を強いられたことがどれほど辛いことか少しでもご理解していただきたく、私の今の生活実態について述べさせていただきます」と具体的な生活実態の報告がありました。

また、第2回口頭弁論を開催する証人申請しましたが、事前に提出された文書で理解できるとしてみとめられず、次回6月24日11時、判決となりました。

終了後は、参議院会館へ会場を移し報告集会を行い、これから予定されている再審査請求運動などについての意志統一を行いました。

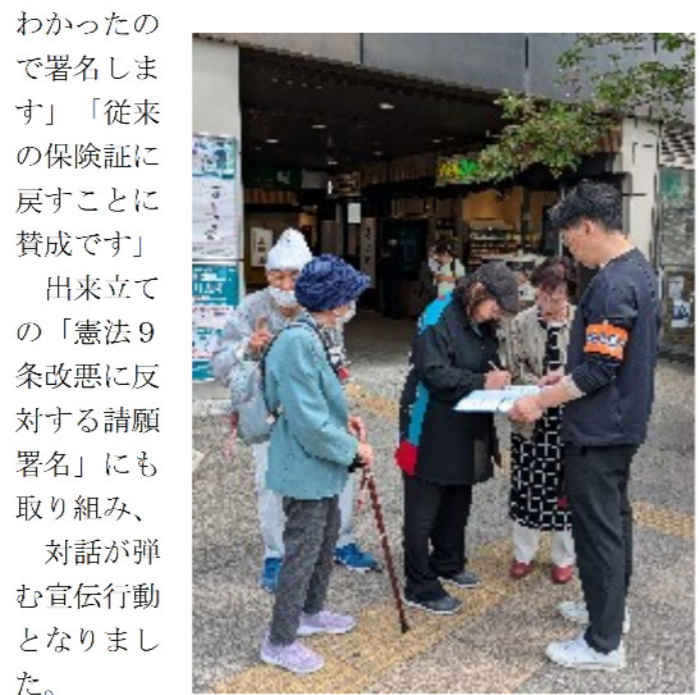
判決日行動については改めてお知らせします。

**新生存権裁判東京高裁控訴審  
判決日6月24日(水)11時**

**OTC類似薬問題に関心集った  
4の日宣伝**

4月14日(火)12時から巣鴨駅前東京社保協・中央社保協共同の「4の日宣伝」を行い32人が参加しました。1時間の宣伝行動で、チラシ入りのテッシュ800個を配布。6種類の署名にとりくみ、合計で70筆を集めることができました。

OTC類似薬患者負担の中止について、「現役世代の保険料負担の軽減を打ち出していますが、一人当たりの軽減額は月63円に過ぎず、一方で花粉症やアトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患の苦しむ患者など、すべての世代に負担増になります」と訴えました。「薬の保険はずしはひどい。訴えがよくわかったので署名します」「従来の保険証に戻すことに賛成です」



**次回の4の日宣伝  
5月14日(木)巣鴨駅で  
6月はお休み12時から**

**東京社保協ニュース**

東京社会保障推進協議会  
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10  
東京労働会館6F  
TEL: 03-5395-3165 FAX: 03-3946-6823  
東京社保協 検索

**ストップ！患者負担増  
一部保険外療養創設？危険な内容を知らせ  
国会請願署名と地方議会意見書採択運動を進めよう**



蒲田駅前宣伝行動に参加する皆さん

今国会で審議されている「OTC類似薬の追加負担導入」は、じんましんや花粉症、喘息などの症状を緩和する抗アレルギー薬、皮膚疾患の保湿剤など、日常的に幅広い疾患で使われている薬です。実施されれば、医療保険が3割負担の人は実質5割、2割の人は4割、1割の人は3割負担と大幅な自己負担増になります。また、財務・厚労大臣折衝の合意では、将来的に「医療用医薬品の相当部分にまで対象範囲を拡大することをめざす」とされ、さらには薬剤にとどまらず、OTC類似薬が処方されるような軽

微・軽症な受診や、低額な受診も給付から外される危険があります。予断を許さない状況ですが、危険な事実を知らせ国民的な世論で、まずは「棚上げ」に追い込む運動が求められています。各地域で宣伝行動を進めながら、議会への働きかけも強めて、意見書採択運動を進めましょう。

**ストップ！患者負担増請願署名  
ロキソニンやアレグラなどの薬の追加負担はやめてください**

※署名欄

氏名	
住所	
電話番号	
署名	

※ロキソニンやアレグラを処方された1100名の日によって、追加負担をやめよう

**法案の恐ろし内容を知らせよう  
蒲田駅前宣伝行動  
大田社保協**

法案の撤回を求め、この法案の恐ろしい内容を世論に訴えようと、太田社保協では4月12日(日)午前10時から、JR蒲田駅西口で署名宣伝行動を行いました。宣伝には生活と健康を守る会、城南保険生協、新日本婦人の会、革新懇などから13人が参加し、次々にマイクを取りました。通行する人たちにチラシを配りながらあちらこちらで、特に高齢の方と対話になり、内容を理解してもらって署名してもらい、13筆の署名が寄せられました。

引きつづき学習しながら宣伝行動を続けていこうと話し合っています。<太田守る会ニュースより>

**今こそ社保協の出番です  
東京社保協総会のご参加ください**

いよいよ第56回東京社保協定期総会が開催されます。第55期は、社会保障をめぐる厳しい情勢の中にあっても、大きな国民的な運動の広がりの中で踏みとどまり、改悪を押し返す流れも作ってきました。地域では、運動の輪を思い切って広げる粘り強いとりくみが様々な変化を作り出しています。悪政を包囲する草の根からの運動が求められています。

今こそ社保協の出番であることに確信をもち、ご一緒に一步を踏み出すために、総会への皆様のご参加をお待ちしています。

とき 5月24日(日)10時30分より  
ところ けんせつプラザ東京5階  
新宿区北新宿1-8-16  
大久保駅北口徒歩3分・新大久保駅徒歩8分

# 大型開発より区民の暮らし優先に 区民の力が区政を変えた 練馬区長選挙勝利

通底する、広範な区民が合意でき団結できる「理念」にもなるとして重視し、全文掲載の会報号外を発行、集会等で積極的に配布し、区長選勝利に一定の役割を果たしました。

<練馬社保協 矢部広明さんより>

## 91回目のなんでも相談会 区民の実態を突き付けた対区交渉 北区社保協

3月24日(火)王子駅前三角公園で91回となる「なんでも相談会」が開催され、相談者は5人でした。

90代の男性から、アパートの建て替えで8月までに退去を迫られているという相談は、地域の不動産屋さんなども相談するなど後日に持ち越し、90代で建て替え退去なら、シルバーピア（高齢者向け公的住宅）の募集に合致するのではないかと現在交渉中です。高齢者のひとり暮らしが増える中で今後も増える相談事例でした。

北区なんでも相談実行委員会は、3月27日(金)におこなわれた北区との自治体交渉で、なんでも相談に寄せられた切実な困窮事例を取り上げました。

家賃の払えない失業者の相談で、「内定が出た失業者は就職活動をしていないので住宅確保金は助成しない」という生活福祉課の解釈は間違っていることを指摘しました。他区では対象となっているからです。会場からも「内定が出たら就職活動はしない」の声も上がりました。

<北区なんでも相談だよりより>



迫力の対区交渉の様子

## 地域社保協の情報をお寄せください

地域の取り組みの交流で  
運動を前進させましょう！  
東京社保協へメールで  
情報提供をお願いします

チラシ・議案  
ニュースなど



### 吉田区長初登庁のお祝いで区役所前に集まった皆さん

練馬区では4月の区長選で広範な住民、住民団体、運動団体に推された吉田健一さんが、小池都知事“子飼い”の都民ファ前幹事長で自民、都民ファ、維新、国民民主などの“高市連合”が支援に総力（小池都知事2回の他、片山財務相、国民民主・玉木代表が練馬に）を挙げた候補を約3万票の大差で破って当選、大手マスコミは中央政界に激震が走った「練馬ショック」との見出しで全国に報道しました。

前任の前川区長は150億円もの巨費を投入する美術館建替え、400戸に立ち退きを強制する公園改造計画、小中校の強引な統廃合や道路建設などを当該する住民の意見、反対を無視して推進していました。

「区長を代えなければ」と1年半前に結成された「みんなで練馬区長選挙2026」プロジェクトにはこれらの区民の区政への怒りが結集し、各課題について地道に勉強会を重ねながら、みんなが合意できる75項目の「政策集」にまとめ、これを支持する複数の区長候補を選考した結果、吉田健一さんを区長に推薦、見事当選に導きました。

練馬社保協はこのプロジェクトに参加するとともに、昨年末に吉田健一さんが立候補を表明すると即、推薦を決め、区民に向け12年間にわたるトップダウンの区政運営の問題点を明らかにした「区長を代えなければならぬ理由」をアピールとして発表しました。さらに「政策集」は来年の統一地方選にも

# 人材不足と事業所の倒産解消めざし 区議会陳情に切実な声 新宿社保協総会での報告から



新宿社保協総会参加者の皆さん

3月27日(金)東京土建新宿支部会館で、新宿社保協総会が開催されました。その中で活動報告をされた介護ユニオン分会の鈴木さんにお話を伺いました。

介護ユニオン分会では昨年9月の新宿区議会定例会にむけ「介護人材確保・定着と介護事業所の支援

のため実効性ある施策を求める陳情」署名に取り組みました。全国では2025年上半期で訪問介護事業所の倒産が2年連続で過去最多を更新。人材不足と事業所の倒産を解消するために、物価高騰と低賃金を補う支援策を区に求めるためです。

この陳情に取り組むにあたり当事者にも運動を広げようと、区内162の介護事業所にも陳情署名を送ったところ、45筆の署名の返信があり、「御熱い中大変ですが頑張ってください」「緊急の課題です。心から応援しています」など、応援メッセージも寄せられました。また、「ぜひ話がしたい」と電話もありました。署名全体では2か月余りの短期間で1123筆集めることができました。

新宿区の陳情は全会派一致が原則とされているため残念ながら「審議未了」となってしまいましたが、介護事業所には陳情審査結果報告と署名のお礼を送りました。今回できたつながりを生かして、これからの運動につなげていきたいと思っています。

<全労連・新宿一般労働組合 介護ユニオン分会書記次長 鈴木等さんより>

# 各地域・団体の取り組み

## 石油製品の品薄・原油価格高騰に危機感 さらなる物価高騰対策を 福祉保育労東京地本

4月21日(火)障害福祉事業所や介護事業所で働いている労組員さんの会議があり、石油製品の品薄や原油価格高騰の影響について実態交流された内容について、福祉保育労から情報提供がありましたので一部ご紹介いたします。

まだ影響は出始めのような段階です。今、業者が抱えている製品の在庫が無くなると、価格の高騰が本格化するのではないかと、現場は不安視しています。介護に必要な消耗品だけでなく、障害者が働いて生産する弁当などの商品にも影響が及びそうのため、深刻です。

この間、介護事業所や障害者福祉施設などは、物価高騰の影響を受け続けています。さらに石油危機で追い打ちがかけられれば、事業所の運営も大変になり、人件費などの抑制にもつながります。

東京都や各自治体は、現時点で国の交付金を使って物価高騰支援を行っていますが、東京都は6月ま

でとしています。その継続やさらなる支援を実現させる必要があります。

《現場からの声…一部》

○介助用の手袋が入手困難になってきている。利用者の歯磨きを介助する際に、両手に手袋をつけているが、このままいくと片手だけしかつけられなくなるのではないかと話題になっている。ハンドソープも心配。（障害者通所施設）

○施設の朝食は前日作ったものを真空パックで保存し、早朝に提供している。しかし真空パックが人らなくなってきたためにタッパーに詰めて保存するようになっている。そのため手間がかかり、朝2人で行っていた業務が3人体制でやるようになった。今後サランラップが品薄・値上げになるとさらに大変になる。（障害者入所施設）

○支援に必要な物の値段が徐々に値上がりしている。手袋・マスク・利用者が使う紙コップなどが値上がりしている。それ以前の物価高騰もあって施設運営が大変になっている。給食の食材費に加えて、入所施設なので24時間の電気代も高く、水道代、ガス代も上がった。（障害者入所施設）

<福祉保育労 國米秀明さんより>